



(参考仮訳)

プレスリリース No. 11/468
即時解禁
2011年12月14日

国際通貨基金 (IMF)
米国・ワシントン DC

クリスティーヌ・ラガルド IMF 専務理事、 対外関係局、人事局、および IMF 研修所の新トップを任命

国際通貨基金 (IMF) のクリスティーヌ・ラガルド専務理事は本日、IMF の対外関係局 (EXR) の局長にジェリー・ライス氏を、人事局長にマーク・プラント氏を、また、IMF 研修所所長にシャーミニ・クーリー氏を、それぞれ任命する意向を明らかにした。

現在 EXR の副局長を務める英国国籍のライス氏は、キャロライン・アトキンソン氏の (Press Release No. 11/294) 、現在アフリカ局の副局長を務める米国国籍のプラント氏は、昨年 10 月に IMF を退職したシャーリー・シーゲル氏の、また同じくアフリカ局副局長でスリランカ国籍のクーリー氏は、定年退職した レズリー・リップシツツ氏の後任をそれぞれ務めることになる。数週間後には新たな任務に就く予定である。

この度の人事を発表するにあたりラガルド専務理事は「ジェリー・ライス氏は、これまで 5 年間、EXR で副局長という要としての役割を果たしてきた。優れたチームプレーヤーであり、幅広いプロとしての専門知識と卓越した戦略センスを備えた同氏は、現在の困難な時期とその後に渡り、我々のコミュニケーションをリードする最適の人物である」と述べた。

「マーク・プラント氏は、IMF 内外で幅広い経験を積み、我々のシニア・パーソナル・マネージャーの一人として優れた功績をあげている。IMF の機能のあり方を熟知しており、スタッフへの関心も変わることがない。今後、人事面の困難なイニシアティブを推し進めていくにあたり、同氏のリーダーシップを期待している」

「シャーミニ・クーリー氏は、IMF の戦略的優先事項および加盟国のニーズを深く理解している。同氏の優れた分析力と管理能力の下、加盟国関係者のための研修セ

ンターとしての IMF 研修所の重要性が一段と高まるとともに、IMF の技術支援や中核業務分野において、同研修所がより大きな役割を果たすと期待している」

ジェリー・ライス氏は、グラスゴー大学より近代史博士号を取得。ハーバード大学のケネディ奨学生であった。2006 年に IMF 勤務となる以前は、世界銀行のコミュニケーション・ディレクターを務めていた。

マーク・プラント氏は、プリンストン大学より経済学博士号を取得。1992 年に IMF 勤務となる以前は、学界や民間部門、政府機関で活躍。アフリカ局および戦略政策審査局での経験を有する。

シャーミニ・クーリー氏は、ハーバード大学より経済学博士号を取得、1986 年に IMF のエコノミスト・プログラムに参加。その後、アフリカ、アジア太平洋、欧州、西半球の各局と戦略政策審査局で頭角を現し現在に至っている。